

この人に聞く

改訂版

経営トップとの対談

吉沢病院広報スタッフ VS 吉沢病院 上田理事長



上田理事長の考える寿会の役割

■ 目の前の困っている方々に寄り添う・それが寿会のDNA!



広報担当スタッフ：令和5年12月にCEO交代の人事があり、新体制でのスタートを切りましたが、改めて上田理事長が考える意気込み等をお伺いさせていただきます。

上田理事長：熊谷のよしざわ内科クリニック時代を含めると寿会との関りは20年になります。吉沢病院の理事長に就任し早4年目を迎えましたが、今まで同様、目の前の困っている患者様、ご利用者様に向き合っていくだけです。

また昨年12月の人事では、長年にわたり小林節 代表監事とともに法人改革を推し進めてきた恒屋昌一CEO(最高経営責任者)が相談役となり、CFO(財務取高責任者)であった伊藤敬之 常務理事が新CEOに就任しました。もともと病院経営は安心してお三方にお任せしておりましたが、伊藤敬之 新CEOが改めて経営に集中できるよう、私自身は今まで以上に目の前の医療に努めてまいります。それが初代・吉沢明雄理事長のお考えでもあり、寿会の精神・DNAを引き継ぐことであると私は思います。

広報担当スタッフ：承知致しました。ありがとうございます。では、改めて上田理事長の医療におけるモットーのようなものはありますか?是非、お伺いさせていただきます。

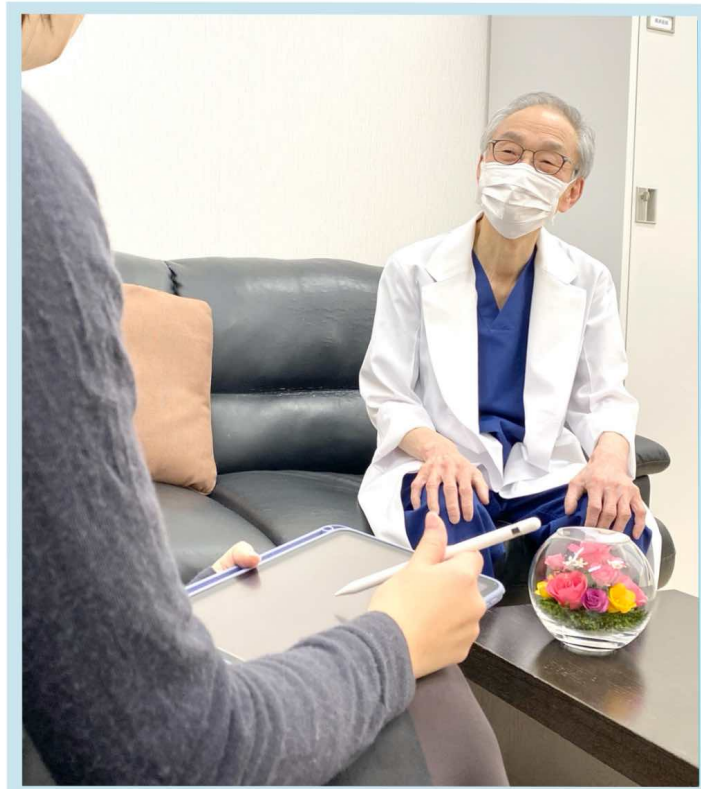
上田理事長：私は消化器科を専門としており、内科全般の診療に加え、外傷(切り傷、火傷)・粉瘤・いぼ・巻き爪 など簡単な外科的処置も行っております。熊谷のよしざわ内科クリニック時代も含め、当法人はご高齢の方の診察 機会が多い環境です。ご家族様の支援が行き届かない患者様も多いので、なるべく当院にかかっていただいた時に私が診察できる内容は対応するように心がけております。また、手前みそではありますが、内視鏡検査実績は今までに1万件以上あります。苦痛のない検査をモットーに取り組んでおります。

内視鏡検査は、患者さまの訴えていらっしゃる腹痛、吐き気、吐血、下血、血便、お腹が張る、胸やけなどの症状がいったいどんな病態で起きているのか明らかにする為に非常に大切な検査です。食道、胃、十二指腸、大腸を直接内視鏡で観察することによって、食道炎、食道静脈瘤、食道癌、胃炎、胃潰瘍、胃癌、出血性大腸炎、大腸ポリープ、大腸憩室、大腸癌など他にも多くの病気の診断を行うことが出来ます。同時に、必要時には専門医療機関とすぐに連携させていただいております。内視鏡検査は今でも「辛い検査」「痛い検査」「苦しい検査」「恥ずかしい検査」というレッテルが張り付いたままです。内視鏡検査を受けることに消極的になるのも当然です。私はこの負のイメージの払拭に取り組みたいです。是非、お気軽にご相談ください。

■ 患者様・ご利用者様、第一の環境を！

広報担当スタッフ：上田理事長のお考えが、よくわかりました。
最後に職員、患者様に上田理事長からメッセージはございますでしょうか？

上田理事長：医療・介護サービスを提供するのは設備等のモノではなく、当然のことながら、そこで働く医師やスタッフであります。私どもは『医療・介護の現場では皆が対等である』という考えのもと、できる限り、アットホームな雰囲気を大切にしながら、業務に励んでおります。時にカジュアルすぎる面もあり、それが玉に瑕ではありますが(笑)、それらの姿勢が自然と患者様や利用者様に対する優しさを生み、結果、患者様・ご利用者様のことを第一に考える環境を作り出す... 私はそう考えております。『良い病院には良い人材が集まる』というのが医療業界の常でございます。寿会が地域社会・地域医療・介護業界から今まで以上に高く評価される医療法人になれるよう 伊藤敬之新CEO、恒屋昌一相談役、小林節代表監事等の経営陣、また全職員とともに全力で努めてまいります。



広報担当スタッフ：承知致しました。上田理事長のもと『鉄桶の団結』で寿会職員一同が伊藤敬之 新CEOをお支えし、改めて医療・介護で地域貢献が出来るよう努めてまいります。
次回は、伊藤新 CEO へのインタビューを予定しています。



上田義夫 Profile

医療法人寿会吉沢病院

理事長 上田義夫 【略歴】

昭和53年 日本医科大学 卒業

昭和53年 日本医科大学第二外科入局

昭和62年 勝沼病院勤務

平成 6 年 中村病院 勤務

平成16年 よしざわ内科クリニック勤務
(院長・管理者)

平成31年 吉沢病院院長就任

令和 2年 吉沢病院理事長就任

寿会との関りは「よしざわ内科クリニック」(熊谷)時代を含めると20年！常に困っている方の目線に立ち、特に高齢者医療に心血を注いでおります。また、内視鏡検査実績は1万件以上になり、苦痛のない検査をモットーに取り組んでおります。

内視鏡検査の「辛い検査」「痛い検査」「苦しい検査」「恥ずかしい検査」というレッテルを払拭できるよう、日々、医療に向き合っております！